# 愛全会グループ教育研修部 ニュース

Vol.12
1月27日号
令和元年（2019）
すべての出会いに幸せを
愛全会グループ

第６回介護職員基本研修

## 『伝わる！！コミュニケーション』

令和元年11月25日に、愛全病院にて、第６回介護福祉士基本研修『伝わる！！コミュニケーション』を実施いたしました。大滝好美愛全病院介護科長が講師となり、介護職の対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的や現場におけるコミュニケーションの役割と技法について講義を行いました。

第７回介護職員基本研修

## 『認知症ケア』

令和元年12月17日に、愛全病院にて、第７回介護福祉士基本研修『認知症ケア』を実施いたしました。札幌市認知症介護指導者の稲邉みきローザガーデン施設長と彦田雄基ローザガーデン介護主任が講師となり、介護福祉士として、認知症高齢者のQOL向上に繋がるケアを実践するための、基本的な知識の講義を行いました。参加者には、認知症の知識を深め、介護専門職として、「その人」と「その人の認知症」に目を向けて、個別のケアを実践するための考え方を学んで頂きました。

## 『介護福祉士養成課程が改正』

2019年4月から介護福祉士養成課程が改正されました。1987（昭和62）年の「社会福祉士及び介護福祉士法」制定で、名称独占である「介護福祉士」という国家資格が誕生しました。正式に介護福祉士養成教育が開始されたのは、翌1988昭和63）年のことでした。ですから、介護福祉士養成教育が始まってから30年以上が経過したことになります。

この間、介護福祉士養成課程は二度の改訂が行われています。1999（平成11）年、2007（平成19）年で、前者は介護保険法の実施に併せて、高齢者領域の科目が強化され、教育時間が150時間に延長されました。また、2007（平成19）年の改正は抜本的な改定でしたこれまでの要請科目が3領域に分類され、養成課程が1800時間に延長されるという大幅な改正でした。（あとに医療的ケアが追加され1850時間の現在の養成過程となる）。

今回の改正は、2017（平成29）年10月に公表された、社会保障審議会福祉部福祉人材確保専門員会の報告書を受けた内容となっています。報告書では、介護人材の構造転換（「まんじゅう型」から「富士山型」へ）を図り、「介護福祉士は介護現場の中核を担う役割」であることが明確に示されました。その役割を担うために、介護福祉士にはどのような機能や能力を求められているのか、といった点が協議された結果、「求められる介護福祉士像」が示されました。この「求められる介護福祉士像」に向かうための介護福祉士養成課程とは、どのようなものであるべきなのかが「介護福祉士養成課程における教育内容の見直し委員会」で検討され、その案が第13回社会保障審議会福祉部会福祉人材確保委員会（2018（平成30）年2月15日）で示されました。

この改正の主な目的の一部として、「対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上」と「介護過程の実践力の向上」があげられています。実習教育でもこの点が課題となりました。介護実習の具体的な教育内容のねらいとして「地域における様々な場面において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。」、「本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。」ことがあげられ、教育に含むべき事項として「介護過程の実践的展開」、「多職種協働の実践」、「地域における生活支援の実践」が示されました。

### 求められる介護福祉士像

＜ 平成19年度カリキュラム改正時 ＞

1. 尊厳を支えるケアの実践
2. 現場で必要とされる実践的能力
3. 自立支援を重視し、これからの介護ニーズ、政策にも対応できる
4. 施設・地域（在宅）を通じた汎用性ある能力
5. 心理的・社会的支援の重視
6. 予防からリハビリテーション、看取りまで、利用者の状態の変化に対応できる
7. 多職種協働によるチームケア
8. 一人でも基本的な対応ができる
9. 「個別ケア」の実践
10. 利用者・家族、チームに対するコミュニケーション能力や的確な記録・記述力
11. 関連領域の基本的な理解
12. 高い倫理性の保持

社会状況や人々の意識の移り変わり、制度改正等

＜ 今回の改正で目指すべき像 ＞

1. 尊厳と自立を支えるケアを実践する
2. 専門職として自律的に介護過程の展開ができる
3. 身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる
4. 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる
5. QOL（生活の質）の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる
6. 地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる
7. 関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する
8. 本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる
9. 制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる
10. 介護職の中で中核的な役割を担う

＋ 高い倫理性の保持

### 新カリキュラムの５つのポイント

2017（平成29）年10月社会保障審議会福祉部福祉人材確保専門員会の報告書を踏まえ、介護福祉士の養成・教育の内容や方法については下記の５つの視点から見直しが行われました。①②は新しく追加された視点、③④⑤は介護福祉士としての専門性の深化につながる視点でありこれまでのカリキュラムを充実する内容となっています。

① チームマネジメント能力を養うための教育内容の充実
② 対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上
③ 介護過程の実践力の向上
④ 認知症ケアの実践力の向上
⑤ 介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上

## 愛全会グループ教育研修部の後の研修ラインナップ

教育研修部の研修に参加希望の職員は各施設の教育研修部メンバーにお伝え下さい。
事前申し込みなしの研修当日の参加も可能です。
（愛全会グループの職員は、どなたでも参加可能です。）

### 第9回介護職員介護職員基本研修
### 『多職種連携のなかでの介護福祉士の役割』

【日時】令和２年２月18日（火）18:00～19:00
【場所】リラコート愛全通所リハビリゲストルーム
【講師】阿部友紀リラコート愛全介護主任

※1単位を35時間として換算

**実務経験ルート(実務者研修)**

| 教育内容 | | 時間数 |
|---|---|---|
| 人間と社会 | | 40 |
| 人間の尊厳と自立 | | 5 |
| － | | － |
| 社会の理解Ⅰ | 5 | 35 |
| 社会の理解Ⅱ | 30 | |
| － | | － |
| 介護 | | 190 |
| 介護の基本Ⅰ | 10 | 30 |
| 介護の基本Ⅱ | 20 | |
| コミュニケーション技術 | | 20 |
| 生活支援技術Ⅰ | 20 | 50 |
| 生活支援技術Ⅱ | 30 | |
| 介護過程Ⅰ | 20 | 90 |
| 介護過程Ⅱ | 25 | |
| 介護過程Ⅲ（スクーリング） | 45 | |
| － | | － |
| － | | － |
| こころとからだのしくみ | | 170 |
| 発達と老化の理解Ⅰ | 10 | 30 |
| 発達と老化の理解Ⅱ | 20 | |
| 認知症の理解Ⅰ | 10 | 30 |
| 認知症の理解Ⅱ | 20 | |
| 障害の理解Ⅰ | 10 | 30 |
| 障害の理解Ⅱ | 20 | |
| こころとからだのしくみⅠ | 20 | 80 |
| こころとからだのしくみⅡ | 60 | |
| 医療的ケア | | 50 |
| 総時間数 | | 450 |

**養成施設ルート**

| 教育内容 | 時間数 |
|---|---|
| 人間と社会 | 240 |
| 人間の尊厳と自立 | 30以上 |
| 人間関係とコミュニケーション | 30⇒60以上 |
| 社会の理解 | 60以上 |
| 人間と社会に関する選択科目 | － |
| 介護 | 1，260 |
| 介護の基本 | 180 |
| コミュニケーション技術 | 60 |
| 生活支援技術 | 300 |
| 介護過程 | 150 |
| 介護総合演習 | 120 |
| 介護実習 | 450 |
| こころとからだのしくみ | 300 |
| 発達と老化の理解 | 60 |
| 認知症の理解 | 60 |
| 障害の理解 | 60 |
| こころとからだのしくみ | 120 |
| 医療的ケア | 50 |
| 総時間数 | 1，850 |

**福祉系高校ルート**

| 教育内容 | 単位数 | 時間換算 |
|---|---|---|
| 人間と社会 | 8 | 280 |
| 社会福祉基礎 | 4 | 140 |
| 人間と社会に関する選択科目 | 4 | 140 |
| 介護 | 37 | 1，295 |
| 介護福祉基礎 | 5 | 175 |
| コミュニケーション技術 | 2 | 70 |
| 生活支援技術（医療的ケアを含む） | 10 | 350 |
| 介護過程 | 4 | 140 |
| 介護総合演習 | 3 | 105 |
| 介護実習 | 13 | 455 |
| こころとからだのしくみ | 8 | 280 |
| こころとからだの理解 | 8 | 280 |
| 医療的ケア | － | － |
| 総時間数 | 53 | 1，855 |

公益社団法人日本介護福祉士会　介護実習のためのガイドラインより

発行／愛全会グループ教育研修部
【連絡先】愛全会グループ教育研修部　愛全病院看護部　（内線）880-3903　発行責任者　山本武文
【教育研修部】人事部科長村瀬智哉　愛全病院介護科長大滝好美　ｶﾞｰﾃﾞﾝﾊｳｽくりやま介護係長佐藤優　ｻﾝ･ｸﾞﾚｲｽ介護係長（ﾏﾈｰｼﾞｬｰ）渡部正嗣　ﾘﾗｺｰﾄ愛全介護主任阿部友紀　ﾛｰｻﾞｶﾞｰﾃﾞﾝ介護主任彦田雄基　ｻﾝ･ｸﾞﾚｲｽ介護主任（ｼﾆｱﾁｰﾌ）成田法卓
ｱｰﾄﾋﾙｽ介護ﾘｰﾀﾞｰ安達翔太　ｶﾞｰﾃﾞﾝﾊｳｽくりやま介護ﾘｰﾀﾞｰ伊藤恵大　ｱﾋﾞﾀｰﾚ･ｱﾈｯｸｽ介護ﾘｰﾀﾞｰ（ﾁｰﾌ）加藤稔　ｱｰﾄﾋﾙｽ介護ﾘｰﾀﾞｰ上坂未来奈　ｱﾋﾞﾀｰﾚ介護ﾘｰﾀﾞｰ（ﾁｰﾌ）河原剣吾　ｱｰﾄﾋﾙｽ介護ﾘｰﾀﾞｰ谷内裕輔